

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 5 月 6 日 (2021.5.6)

【公開番号】特開 2020-13893 (P2020-13893A)
 【公開日】令和 2 年 1 月 23 日 (2020.1.23)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-003
 【出願番号】特願 2018-135232 (P2018-135232)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 21/027 (2006.01)

H 0 1 J 37/305 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 21/30 5 4 1 J

H 0 1 L 21/30 5 4 1 W

H 0 1 L 21/30 5 4 1 M

H 0 1 J 37/305 B

【手続補正書】
 【提出日】令和 3 年 3 月 22 日 (2021.3.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 9】

図 5 (b) に示すように、 $f l a g_b$ は 1 ビットの値であり、 $f l a g_b$ が 0 の場合、ライブラリデータ D 2 を参照せず、続く $d a t a$ に第 1 方向の変位 δ が登録されていることを示す。 $f l a g_b$ が 1 の場合、ライブラリデータ D 2 を参照し、続く $d a t a$ に、ライブラリ参照情報が登録されていることを示す。すなわち、 $f l a g_b$ が 1 の場合、ライブラリデータ D 2 に登録されている頂点列を用いて辺を表現していることを示す。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 7】

2 つ目の分割図形は、上下の両方の辺 S 3、S 4 の情報が登録されるため、 $f l a g 1$ は 0 0 となる。辺 S 3、S 4 は直角タイプであり、ライブラリデータ D 2 の頂点列を使用しないため、 $f l a g_a$ は 0 0、 $f l a g_b$ は 0 となる。 $d a t a$ には第 1 方向の変位 $\delta_{2 1}$ 、 $\delta_{2 2}$ が登録される。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 8】

3 つ目の分割図形は、上下の両方の辺 S 5、S 6 の情報が登録されるため、 $f l a g 1$ は 0 0 となる。辺 S 5、S 6 は任意角タイプであり、ライブラリデータ D 2 の頂点列を使用できるため、 $f l a g_a$ は 0 1、 $f l a g_b$ は 1 となる。辺 S 6 は参照番号 R e f

1の頂点列を任意角タイプの線で結んだものであり、辺S5は同じ参照番号Ref1の頂点列を反転して任意角タイプの線で結んだものである。そのため、辺S5は、mirrorが1、rot_noが00、ref_noがRef1となる。辺S6は、mirrorが0、rot_noが00、ref_noがRef1となる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

4つ目の分割図形は、上下の両方の辺S7、S8の情報が登録されるため、flag1は00となる。辺S7、S8は直角タイプであり、ライブラリデータD2の頂点列を使用しないため、flag_aは00、flag_bは0となる。dataには第1方向の変位 δ_{41} 、 δ_{42} が登録される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

図14に示すように、flag_cは1ビットの値であり、flag_cが0の場合、他の頂点列データを参照せず、続くdataに、1つ前の点からの相対座標dx_n、dy_nが登録されていることを示す。flag_cが1の場合、他の頂点列を参照し、続くdataに、ライブラリ参照情報が登録されていることを示す。